

熊本支援

For children in Kumamoto



第一回 震災1週間後

支援物資とアートワークショップ

地震の1週間後に、キッズアースカーで被災地に入りました。地震発生から幾日かが経ちましたが、まだまだ余震が続いている為、学校が今なお避難所になっている状態でした。そのため、授業を再開する目途が立てられず、日に日に子どもたちのストレスも溜まり、今まで出たことのないアレルギー症状が出たり、皮膚炎や口内炎ができていく子どもたちが多く見受けられました。

子供地球基金では物資のお届け以外に、そうした子どもたちへ、広場、駐車場、避難所等で絵を描くワークショップを行いました。大きなキャンバスで描いた絵のタイトルは『あたまの中』。「地震でグチャグチャになる頭の中を表現した。」と話してくれました。被災地の子どもたちが地震によってどれだけストレスを感じ、混乱しているかが伺い知れます。

震災に遭った小学校の校長先生とのミーティングでは、「学校再開の目処が立たず、子どもたちの精神的ケアが今後の課題。『協力してほしい。』との依頼を受け、2回目の熊本支援のお約束をして帰京致しました。

- ▶ 熊本市立田迎西小学校
- ▶ 益城町総合体育館
- 熊本県立総合体育館
- 熊本県民総合運動公園
- 他 個人宅など



▲支援物資のバナナを避難所で

▼事務局に集まった物資



▼車上生活している子どもたちと。

▼事務局に集まった物資



▲避難所に物資を寄付

▲避難所の外で。



▲震災直後のコンビニ



第二回 4月30日より

避難所や車の中での生活が続き、学校も行けず、我慢を強いられている子どもたちは、絵の具を使って全身で絵を描くことを心から楽しんでいました。外はまだ危険な場所が多く、遊ぶ場所も限られている為、ワークショップを通して子どもたちの気持ちが少しでも明るく前向きになればと願います。

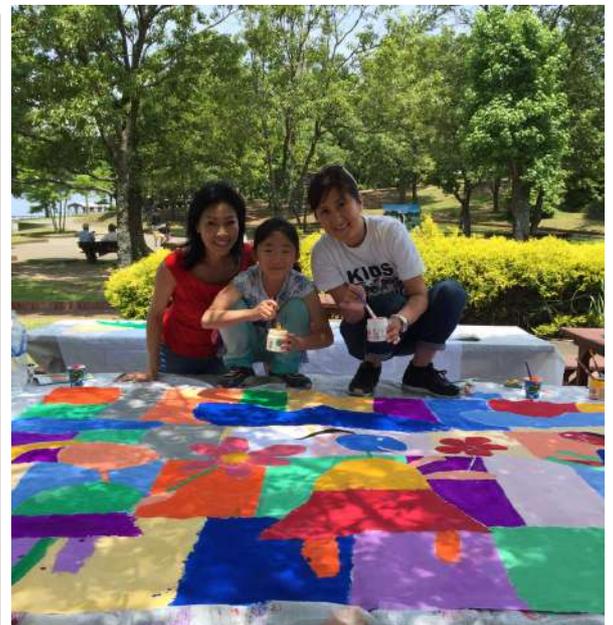
- ▶ 益城町総合体育館
- ▶ 熊本県立総合体育館
- ▶ 熊本県民総合運動公園
- ▶ 阿蘇熊本空港ホテルエミナース（避難所）
- ▶ 坪井川緑地
- ▶ 他 個人宅など



▲避難所にて



▲学校がなく、退屈している子どもたちと。



第三回 5月21日より

第3回目は5月21日・22日にて1枚の大きい布に絵を描くワークショップを行いました。

学校は再開したものの地震が怖くてヘルメットをして授業を受けているという子どもたちもいましたが、大きな絵を皆んなで心を一つにして大作を仕上げました。

- ▶ 阿蘇ミルク牧場



東北支援

5月28日（土）熊本を応援する絵を描こう



小児病棟 ・ 児童養護施設

3月ー6月

3月1日（火）神奈川県立こども医療センター

4月4日（月）神奈川県立こども医療センター

4月12日（火）東京慈恵会医科大学附属病院

5月13日（木）東京慈恵会医科大学附属病院

5月16日（月）神奈川県立こども医療センター

6月10日（金）東京慈恵会医科大学附属病院

6月11日（土）児童養護施設 至誠学園

6月14日（火）神奈川県立こども医療センター





BULGARI HOTELS & RESORTS

難病の子どもたちと絵を描くワークショップをブルガリ イルレストランテルカ・ファンティンにて、絵を描くワークショップを行いました。一生懸命絵を描いた後は、ブルガリ レストランのランチのコースを頂きました。ブルガリ イルレストランにて一生に一度の大切な思い出を作ることができました。

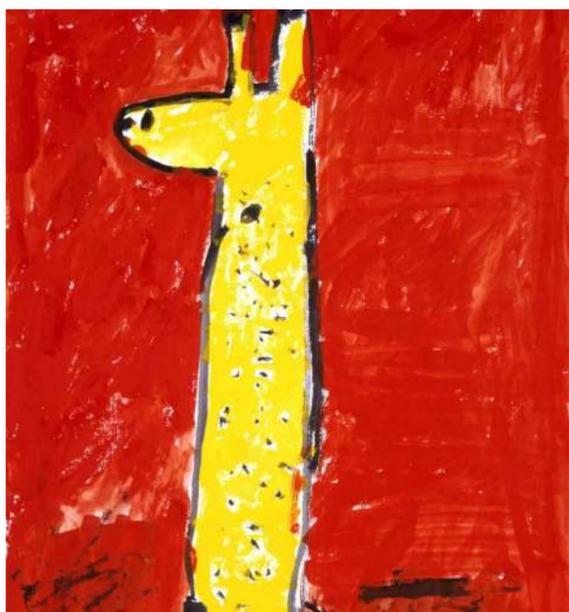


子どもたちの絵で、病院や児童養護施設、特別支援学校に子どもたちの複製画を寄贈し、環境を明るくプロジェクトを立ち上げました。ブルガリから頂いた寄付で複製画を作り、まずは10施設に寄贈しています。



子どもたちの絵で地球を塗り替えよう

複製画を作成



1000点以上の子どもたちの絵の作品から、お好きな絵をお選び頂けます。
株式会社アマナのご協力により、実現しました。
仕上がりはご注文を頂いてから、2週間でお届けします。（納品：要相談）

COLLABORATE WITH RE機構

コルクを再利用し、
障害や難病を抱えた方たちが手作りで額を作りました。
障害者の雇用支援にもつながります。

